



なすびの花

七つ道具

先日、工場パトロールの時に、パトロールメンバーの人から

「QC七つ道具って何でしたっけ？」

と聞かれましたが、すぐには答えられなかったため、改めて調べました。

『QC七つ道具』というのは、仕事をこなす中で、問題の捉え方、現状の把握、原因の追究と解析といった数値データの解析で用いる手法のことです。

本社工場内にも掲示されているものもありますが、『パレート図』、『特性要因図』、『グラフ』、『チェックシート』、『ヒストグラム』、『散布図』、『管理図』の七つを『QC七つ道具』と呼びます。

- ① 課題を洗い出し、改善テーマを設定
- ② 現状を把握し、目標を設定
- ③ いつ、だれが、どのように、と計画を策定
- ④ 問題点の要因を分析
- ⑤ 対策の検討・実施を行う
- ⑥ 対策の効果を確認
- ⑦ 改善内容を標準化し、定着させる

この七つのステップの中で『QC七つ道具』を使って、重要な情報・問題点・原因をあぶり出し、品質の管理を行います。

七つ道具の『七つ』とは、一揃いとか、一式の意味で使われていて、実際には七つ以上の道具である場合もあります。

『QC七つ道具』にも、もうひとつ『層別』という方法が入っていて、データの共通点や特徴でグループ分けする時に使います。

武蔵坊弁慶という人物を皆さまもご存じかと思えます。

平安時代の僧兵で、源義経の家臣だった人です。

その弁慶が、七つ道具である『熊手・大槌・大のこぎり・さすまた・まさかり・突く棒・もじり』をいつも持ち歩き、この七つ道具のおかげで百戦百勝したという故事があります。

この故事にならって、『QC七つ道具』が生まれ、日本の製造業における現場の技術力や品質意識が各段に向上し、世界一の品質へと押し上げられました。

他にも『新QC七つ道具』というものもあり、間接部門や製造業以外の業務改善に用いられています。

また、開発・設計においては、『信頼性七つ道具』というものもあり、製品の信頼性確保のサイクルが回されます。

現場ごとに色々な『七つ道具』があるので、調べてみると面白いですね。

品質管理実践セミナー

11月に、製造課と検査課から1名ずつ、『品質管理実践セミナー』を受講しています。

その中から、興味深いお話を一つご紹介いたします。

作業には『ムダ』が多くあり、実は作業の10〜20%程度が、付加価値を生む正味作業であるとのことでした。

『釘を打つ』という正味作業を例に取ると、『釘を持つ』・『釘づちを持つ』・『振りかぶる』といった釘を打つ作業に必要な動きが残りの80〜90%ということになりますね。

時間をかけるほど品質が落ちる」というお話もあり、この『動き』の中にあるムダを効果的に省くと、早くて品質も良い製品ができるという内容が印象的でした。

普段行っている作業の中にどんな『ムダ』が潜んでいるのか考え、効果的に省いて、品質維持向上に努めましょう。

年末年始休暇

今年の年末年始の休暇は、

12月29日〜1月4日までです。

※暴飲暴食に注意しましょう!